

美方高校新聞



発行所
福井県立美方高等学校
新 聞 部
責任者
新 編 集 部
新 開 部

陸上部の熱き戦い 北信越に9名出場



男子1500m決勝ラストスパート

「北信越ではま

五月二十七日～二十九日、春季総体陸上競技が福井市の9・98スタジアムで行われた。今大会で上位六位に入賞した選手が北信越大会に出場することができる。美方高校からは長距離をはじめとする六種目九名が北信越大会への出場権を掴んだ。

初日に行われた一五〇〇メートルの決勝は、炎天下のレースとなった。家光応輔と西野寛太郎は序盤からペースを作り力走。家光は三位、西野は五位に入賞し、北信越大会の出場権を獲得した。女子は名里奏夢が四位入賞を果たした。

二日目以降も美方勢の活躍は続いた。三〇〇〇メートル障害では宇野駿汰、大西克明、北村史陽が、五〇〇〇メートルでは上田凌久と大野蒼来が上位に入賞した。八〇〇メートルでは家光応輔が準決勝を一位で通過し決勝に臨んだ。序盤は周りについて行き、残り二五〇メートルでラストスパートをかけトップに出た。しかし、ゴールまであと三〇メートル付近で抜かれ、惜しくも二位でフィニッシュした。家光は「ラストに僅差で負けてしまい悔しい」とレースを振り返り、

競り合う女子一五〇〇m決勝



- 一位 家光応輔
- 二位 西野寛太郎
- 三位 家光応輔
- 四位 西野寛太郎
- 五位 西野寛太郎

「今回は一年生が勢いのある走りをした。二、三年生からは上位大会に出場したいという気持ちで強く伝わってきた」と大会を振り返った。今後の課題として「まずは個々の力を今よりも上げていく必要がある。北信越では自分より強い相手に気持ちで負けず向かってほしい」と話した。

男子一〇〇〇メートルは竹浦陸が予選を組二位で突破した。準決勝では組五位となり惜しくも決勝進出は叶わなかった。短距離顧問の中内先生は「三年生は自分自身のことはもちろん、チームのことを考えて行動していた。今後一、二年生はチーム目標である『考えられる人』『自分から行動できる人』になっほしい」と語った。



手に汗握る3000m障害決勝

- 三位 宇野駿汰
- 四位 大西克明
- 五位 北村史陽
- 六位 家光応輔
- 二位 家光応輔
- 三位 上田凌久
- 四位 大野蒼来
- 五位 名里奏夢
- 六位 濱野彩花



僅差の戦い男子一〇〇m